

今日のトピック インドのGDP成長率（2017年1-3月期）

1-3月期の減速は一時的、高成長持続の見込み

ポイント1 1-3月期GDPは減速
2016年度は7.1%成長

- インドの2017年1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.1%となりました。前期の同+7.0%から減速し、市場予想（ブルームバーグ、同+7.1%）を下回りました。インドでよく用いられるGVA成長率も同+5.6%と、前期の同+6.7%から減速し、市場予想（同+6.8%）を下回りました（GVA成長率は生産面からみた成長率）。
- ただし、2016年度（16年4月～17年3月）の実質GDP成長率は前年度比+7.1%となり、3年連続で+7%を超える高成長を達成しました。

ポイント2 成長率減速は特殊要因
高額紙幣廃止や統計改定の影響

- 1-3月期の実質GDP成長率が前期から大きく減速したのは、16年11月に実施された高額紙幣の廃止に伴う混乱や、GDP統計の大幅改定による一時的要因による影響と見られます。景気の拡大基調は続いていると考えられます。
- 需要項目別の寄与度を見ると、高額紙幣の廃止の影響などで民間消費が+4.2%と、前期の+6.3%から縮小しました。

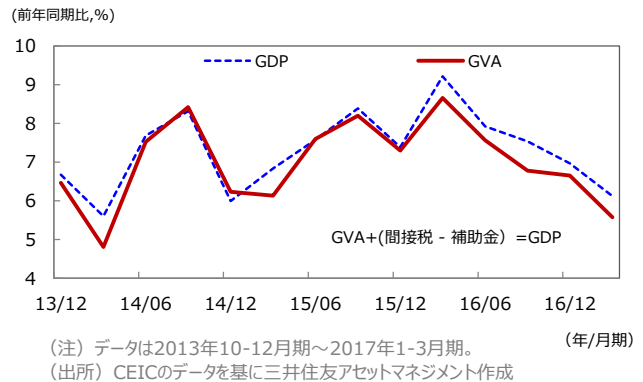
今後の展開 高成長持続の見込み

- インド政府は、16年5月に企業の破綻処理を円滑にして不良債権処理を進める「破産・倒産法」を成立させました。更に、複雑な税制を一本化して経済の効率化を促す物品・サービス税（GST）を17年7月にも導入する方針です。高額紙幣廃止に伴う景気減速の影響が薄れるなか、政府が主導する税制改革や不良債権処理の進展の後押しもあり、インド経済は今後も高成長を維持すると見込まれます。

ここもチェック! 2017年5月18日 **インドの経済・市場動向（2017年5月）**
2017年5月17日 **アジアの通貨動向（2017年5月）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【実質GDP及びGVA成長率】



【実質GDP成長率と需要項目別の寄与度】

